

第2期中期計画の認可にあたっての委員からの質問・意見と対応（案）

大項目	小項目	ご意見 等	委員長（案）
第2 教育研究等の質の向上に関する事項 1 教育	(1) 特色ある教育の推進アb	<p>【発信力ゼミの少人数の数について】</p> <p>①第2期中計の評価指標では、発信力ゼミにおける1クラスの人数を（第1期中計の16人程度から実績数値である）20人程度に増やしているが、「少人数」教育とは、なかなか言い難い。</p> <p>②20人程度は少人数クラスといえるのか。</p>	<p>①・②</p> <p>・現状として、学生が希望するテーマの偏りや教員の増員も予算の関係があると聞いている。このような現状を踏まえると、1クラス20人程度はやむを得ないと考えるがいかがか。</p>
	(1) 特色ある教育の推進イa (2) 教育の質の向上等イb	<p>【FD・SD研修に係る指標について】</p> <p>③教職員等人材育成のための重要なお取り組みと思います。内容によって必要のない教職員の方もいるかと思いますが、年度方針の説明会だけでも1回となるかと存じます。積極的な参加目標へのご変更をご検討いただけないでしょうか。</p> <p>④FD・SD及びSD研修への年1回以上の参加を100%とする目標値は低いのではないか。</p>	<p>③・④</p> <p>・目標を変えるのではなく、年度によってテーマが偏らないように、また参加しやすい方法を工夫するなどの取組を評価の際に求めてはどうか。</p>
	(1) 特色ある教育の推進イb	<p>【TOEICの指標について】</p> <p>⑤定量指標として、2年次修了時のTOEIC平均点を学部により650点または730点と前中計より高い目標を掲げ、卒業時までの継続的英語教育について環境の整備を図ろうとすることは評価できる。</p> <p>⑥毎年度課題になっていたTOEICのレベルが従来より上がっているように思うが大丈夫ですか。</p>	<p>⑤・⑥</p> <p>第1期の全員600点以上という目標値よりも点数は高くなっているが、学部ごとに目標値を変え平均点としていること、また伸び率も指標に加えていることから、目標値の達成に向け取り組んでいただきたい。</p>
		<p>【継続した英語力の向上について】</p> <p>⑦3,4年次にもきちんと英語教育をした方が良いのではないか。</p>	<p>⑦</p> <p>卒業時まで継続して英語力が向上できるよう環境を整備するとしているので、このままの記載でいかがか。</p> <p>ただし、取組については評価で判断するものとしたい。</p>
(2) 教育の質の向上等ウa	<p>【時代の変化に対応した取組について】</p> <p>⑧時代に即した新規取組を評価する。</p> <p>⑨県内の産業振興の中でIT人材が不足しており合理化などの足枷になっている。是非IT・DX関係人材を養成する為、情報学部の新設を希望します。</p>	<p>⑧・⑨</p> <p>来年度から新たにリテラシーレベルのプログラムを開設し、R7年度の文部科学省の認定を目指すとしているので、このままでいかがか。</p>	

	(4) 入学者の受入れ ア a	<p>【広報活動について】</p> <p>⑩ 定性指標において分析結果の広報活動への反映は目標とされているが、具体的な広報活動についての目標が掲げられておりません。具体的な広報活動について、定期的に実施する予定の広報活動については、目標に記載されてはいかがでしょうか。</p>	<p>⑩</p> <p>具体的な広報活動は6年間で変わることも想定されるため、毎年度「広報基本方針」に前年度の入試結果を反映するとしているので、このままの指標でいかがか。</p> <p>ただし、具体的な取組については評価の際に確認するものとしたい。</p>
2 研究	(2) 研究費の確保	<p>【研究費の確保について】</p> <p>⑪ 前中計の申請率から保有率に指標を変更したことは、研究費の確保について実効性のある指標として意義を有するものとする。</p> <p>⑫ 新中計の目標は研究費の確保を促進する目標となりえますでしょうか。</p> <p>指標の①は先生方の共同研究や受託研究の促進目標とし、科研費については指標②として別項目で目標を明確になさるのはいかがでしょうか。</p>	<p>⑪・⑫</p> <p>第1期中期計画では、開学当初であったことから、教員が申請する科研費の申請率を目標にしていたが、第2期では、共同研究や受託研究も実績を踏まえて見込んだ指標なのでこのままの指標でいかがか。</p>
3 地域貢献	(2) 地域連携 ア	<p>【公開講座の件数について】</p> <p>⑬ 準備や集客が大変だとは思いますが、C S I以外の学科関連でも公開講座を企画すれば、年間10件という現状を打破できるのではないだろうか。</p>	<p>⑬</p> <p>・C S Iを中心にしっかり取り組んでいただきたい。</p>
第3 業務運営に関する目標を達成するためとすべき措置	2 内部統制体制の整備イ	<p>【コンプライアンス・ハラスメント研修の参加率について】</p> <p>⑭ コンプライアンス及びハラスメントに関する研修会は、100%参加が必須です。アカデミックハラスメント防止のためにも、定量的目標100%参加を入れていただければと存じます。</p>	<p>⑭</p> <p>・R4年度から録画配信による受講を周知し、受講率の向上に努めているので、このままの記載でいかがか。</p> <p>ただし、取組については評価の際に意識が徹底されているか実際の参加率を確認したいと考える。</p>